

月寒九条の会

会報

2015年5月
No.9

月寒九条の会では第9回例会として、3月15日北海道自由が丘学園にて、当会世話人の高畑滋さんによる「憲法九条の輝きと基地問題」と題した講演会を開催しました。

高畑さんは、学生時代、砂川基地闘争に参加。砂川、恵庭、長沼と続いた基地闘争を中心に、平和憲法と基地問題についてスライドを使って講演しました。

押しつけではない憲法9条

高畑さんは、はじめに、終戦後、中学1年生として初めて使った教科書が、文部省発行の「あたらしい憲法のはなし」であり、これで戦争放棄や国民主権、地方自治などを学んだと語りました。

そして、安倍首相は、「現

行憲法は押しつけられたもの」と言うが、国会でも十分論議され、覚悟の上で作られたものであり、押しつけではない



あたらしい憲法のはなし

文部省



連絡先：野口 (852-9360)
加藤 (852-2346)
e-mail:tsukisamu9@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/tsukisamu9/

裁判へのアメリカの介入

砂川事件

「基地拡張で農地を取り上げられるのはいやだ」とする反対から、基地拡張は原爆の基地とするための拡張で許されないと反対闘争が広がった。砂川事件では、基地内に立ち入ったことが刑事特別法に違反するとして裁判になったが、一審では「米軍駐留は憲法違反」との伊達判決が出された。

これに驚いたアメリカが日本政府に圧力をかけ、最高裁の田中長官が伊達判決を覆した」と概要を紹介。

しかし、2008年アメリカの国立公文書館で、アメリカの介入を示す文書が見つかり、砂川事件の最高裁判決は公正な裁判を受ける権利が侵害されたもとの判決であったとし、再審を求める請求が昨年なされたと言いました。

と明確に答弁、金森憲法担当大臣も「いわば捨て身になって世界の平和を叫ぶという態度を取った次第であります」と答えていたことを紹介しました。しかし、その後、自衛のための戦力は認められると言いつつ、自衛隊の発足、米軍基地の強化が進められて行つたと語りました。

憲法判断を回避した

恵庭、長沼事件

恵庭事件では、牧場の納屋を標的にした演習の中止を求め、自衛隊の通信線を切断したことが国の防衛にかかわる自衛隊法に反するとされたが

通信線は防衛に資する施設ではないと無罪になったこと。長沼ナイキ訴訟では、自衛隊は憲法違反との判決が下されたが、控訴審では憲法判断を

総会と戦争法案についての講演会のお知らせ

6月28日(日)午後
東月寒地区センターにて

憲法9条を無視し、日本を戦争する国にする11本の戦争法案が国会に提出されました。この問題点について、川上麻里江弁護士(さっぽろ法律事務所)に語って頂きます。

講演会終了後、総会を行います。詳しくは後日お知らせします。

市民講演会

「本当の戦争の話をしよう」

講師：伊勢崎賢治(東京外国語大学教授)

6月6日(土)18時~

エルプラザホール

(北1西3、札幌駅北口)

本会の共同代表である三上さんが委員長を務める伊勢崎賢治講演会実行委員会の主催です。札幌市後援。

資料代500円、学生無料

問い合わせ先：758-4586

避け、代替のダムをつくるから保安林解除は妥当と逆転判決となったことを紹介。

さらに、高畑さんは、現在も続いている別海町の矢白別演習場の闘いについても紹介しました。

判断を国民にゆだねるなら

我々の力を示そう



高畑さん

終わりに当たり、高畑さんは砂川事件の海野弁護団長の言葉を引用し、「最高裁は基地問題についての憲法判断を避け、判断は国民にゆだねると

とを阻止することができたとし、住民運動の力とともに、地方自治体の長を我々の要望を通ずることも大切としました。

戦争法案許さない行動を

豊平区内の九条の会で

豊平区内の九条の会では、これまで交流会を持つて、お互いの経験交流を行ってきました。その中で、かつて、北海学園で行った小森陽一郎さんの講演会のような規模の大きい行事を共同で行えないかとの話が出されました。

民館で戦争法案に反対する集会を開き、その後福住駅までデモ行進を行う。

3. この秋に、豊平区内で規模の大きな集会（講演会）を開く。

その後、憲法9条を無視し、世界のどこへでも、いつでも自衛隊を海外に派兵できるようにする戦争法案が国会に提出されることとなったこと

当面は、7月11日午後の集会とデモ行進が、大きな行動となります。詳細は後日お知らせしますが、是非、この行動に参加されるようお願いいたします。

辺野古からの報告も

講演後の意見交換では、「現実には自衛隊の創設や日米安保条約で平和憲法が壊されてきたが、それでも歴代の政府は『平和憲法』とのためまえば崩さなかった。しかし、今の安倍政権はこのためまえてまもなく捨てようとしており、モラルもない」との指摘がされました。

また、2月に沖縄辺野古の基地建設に反対する闘争の支援に行ってきた井上さんから、現地で開かれた基地ゲート前での抗議集会の様子などを語ってもらいました。

井上さんは、「現地で、辺野古には強襲用上陸艦が接岸できる埠頭が建設されるとともに、弾薬庫も造られるなど、巨大な基地が造られようとしていると教えられた。沖縄の人々はしっかりと考えて意思表明をし、国家権力に逆らっており、我々も学ぶべき。現地の人々は現状で精一杯であり、支援に行った人との交流の場もなかなかもてない状況にある。こうした中で、我々としては、沖縄、辺野古の現状を一人でも多くの人に語っていくことが必要。また、金銭的な支援も今求められている」と語りました。

1. 各9条の会から実行委員会を出し、実行委員会を作つて取り組む。

2. 7月11日(土)午後、豊平区民に広く呼びかけ、月寒公

豊平区平和行進

今年も礼文島を出発し、8月の広島、長崎をめざす国民平和大行進の札幌入りに合わせ、5月16日に豊平区平和行進が取り組まれ、月寒九条の会も参加しました。

肌寒い天気にもかかわらず、新日本婦人の会、豊平区革新懇、区内の九条の会などから90人が参加しました。

参加者は、核兵器廃絶、戦争立法許すな、などと書かれたのぼりやうちわを手に、美園生協前から地下鉄白石駅近く

のやまびこ公園まで行進しました。やまびこ公園では礼文島からの行進を迎え、みんな写真を撮りました。

